

第26回 教育研究大会・教員研修会

プログラム・抄録集



会期 平成25年 8月22日(木)～24日(土)

会場 大阪国際交流センター

〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8丁目2-6

大会長 寺山 久美子 大阪河崎リハビリテーション大学

テーマ

リハビリテーション教育改革の 潮流の中で



人のこころを潤す医療人に



森ノ宮医療大学

保健医療学部

鍼灸学科 [60名] | 理学療法学科 [60名] | 看護学科 [80名]

大学院

保健医療学研究科 保健医療学専攻 修士課程



<http://www.morinomiya-u.ac.jp/> ☎ 0120-68-8908

[TEL] 06-6616-6911 [FAX] 06-6616-6912 [E-mail] univ@morinomiya-u.ac.jp

〒559-8611 大阪市住之江区南港北1-26-16 大阪市営地下鉄・中央線「コスモスクエア」駅②番出口より徒歩1分(南へ約90m)



一般社団法人全国リハビリテーション学校協会会員校
学 校 長 様

一般社団法人全国リハビリテーション学校協会
理事長 高木 邦格
第26回教育研究大会・教員研修会
大会長 寺山 久美子
(公印省略)

第26回教育研究大会・教員研修会 出張許可のお願い

謹啓 盛夏の候、貴校におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より当協会の運営に、格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、この度、下記により第26回教育研究大会・教員研修会を開催する運びとなりました。つきましては、貴校の_____氏の教育研究大会・教員研修会への参加および出張につきまして、格段のご配慮いただきますよう謹んでお願い申し上げます。

謹白

記

1. 日 程 教員研修会 平成25年8月22日(木)～24日(土)
教育研究大会 平成25年8月23日(金)

2. 会 場 大阪国際交流センター
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8丁目2-6
URL : <http://www.ih-osaka.or.jp>

3. 事務局 大阪河崎リハビリテーション大学
〒597-0104 大阪府貝塚市水間158
TEL 072-446-6700 FAX 072-446-6767
E-mail : 26th_kyoin_kenkyu@kawasakigakuen.ac.jp

以 上



一般社団法人 全国リハビリテーション学校協会

第26回 教育研究大会・教員研修会

プログラム・抄録集

メインテーマ

リハビリテーション教育改革の潮流の中で

会期 教員研修会 平成25年 8月22日(木)～24日(土)
教育研究大会 平成25年 8月23日(金)

会場 大阪国際交流センター
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8丁目2-6 電話：06-6772-5931

大会長 寺山 久美子 大阪河崎リハビリテーション大学

主催 一般社団法人 全国リハビリテーション学校協会

後援 近畿厚生局 大阪府 大阪市
公益社団法人 日本理学療法士協会 一般社団法人 日本作業療法士協会
一般社団法人 日本言語聴覚士協会 公益社団法人 大阪府理学療法士会
社団法人 大阪府作業療法士会 大阪府言語聴覚士会

大会事務局

大阪河崎リハビリテーション大学

〒597-0104 大阪府貝塚市水間158

TEL: 072-446-6700 FAX: 072-446-6767

E-mail : 26th_kyoin_kenkyu@kawasakigakuen.ac.jp

第26回教育研究大会・教員研修会 ご挨拶

リハビリテーション教育改革の潮流の中で

第26回教育研究大会・教員研修会

大会長 寺山 久美子

平成23年3月11日の東日本大震災後ほぼ2年を経過しましたが、復興が思うように進まないとも報道される中、被災された全国リハビリテーション学校協会会員及び各校の先生方、在学生、関係者の方々のご健闘を心より願う毎日です。

さて、この度、全国リハビリテーション学校協会が主催する第26回教育研究大会・教員研修会が大阪の地で開催されることになりました。大阪府下の学校を中心に、近畿ブロック各校の協働のもと準備を進めて参りました。

現在、日本の社会情勢の変動、少子化、高等教育進学率の増加等に伴い、学力、意欲、コミュニケーション力に問題がある等、多様化した学生の受け入れがリハビリテーション教育界においても大きな課題となっています。昨年、長年リハビリテーション教育の舵取りをしてきた3団体が統合され一般社団法人全国リハビリテーション学校協会となり、さらにリハビリテーション教育の質保証を目的に外部評価を行うための機関である「一般社団法人リハビリテーション教育評価機構」も設立され、まさに平成24年はわが国のリハビリテーション教育にとっては記念すべき年となりました。

そこで、第26回の本大会はこうしたリハビリテーション教育改革をさらに進展させていくことを目指して、テーマを「リハビリテーション教育改革の潮流の中で」としました。

まず、「保健医療福祉の連携協働とリハビリテーション教育に期待するもの」として、地域包括ケアシステムの権威である高橋紘士先生から特別講演をいただき、それを受けて臨床・教育現場での実践者によるシンポジウムを組みました。また教育改革に関しては「高等教育における初年次教育の動向とリハビリテーション教育への提言」として、この方面の重鎮である梶田叡一先生による特別講演をいただき、次にこれからのリハビリテーション職種養成の卒前から卒後生涯教育までのあり方を各職能団体の会長及び才藤栄一先生によるシンポジウムで論じていただきます。教育講演では、笑いの教育効果を実践する笑福亭松枝師匠、また「障害者福祉の動向とリハビリテーション」と題して厚生労働省の岡田太造 社会・援護局長をお招きして今後の教育実践に示唆をいただく講演を企画しました。

一方、教育研究大会では、口述発表とポスター発表を合わせて124題を予定しています。多くの会員による日頃の教育実践の実りある成果を大いに楽しみにしております。

大阪のまちは日々変貌を遂げております。会場である大阪国際交流センターだけでなく、エネルギー溢れる大阪を是非お楽しみください。

第26回大会準備委員会一同、多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

- ⑦ 午前の発表者は12:00までにポスターを撤去してください。また、午後の発表者は15:00までにポスターを撤去してください。撤去されない場合は、事務局で撤去・廃棄いたします。

2. ポスター発表の受付

- ① 午前の責任発表者は、ポスター会場内にて、10:00～10:20に受付を行ってください。また、午後の責任発表者は、13:00～13:20に行ってください。
- ② 貼付用の画鋏は受付でお受け取りください。

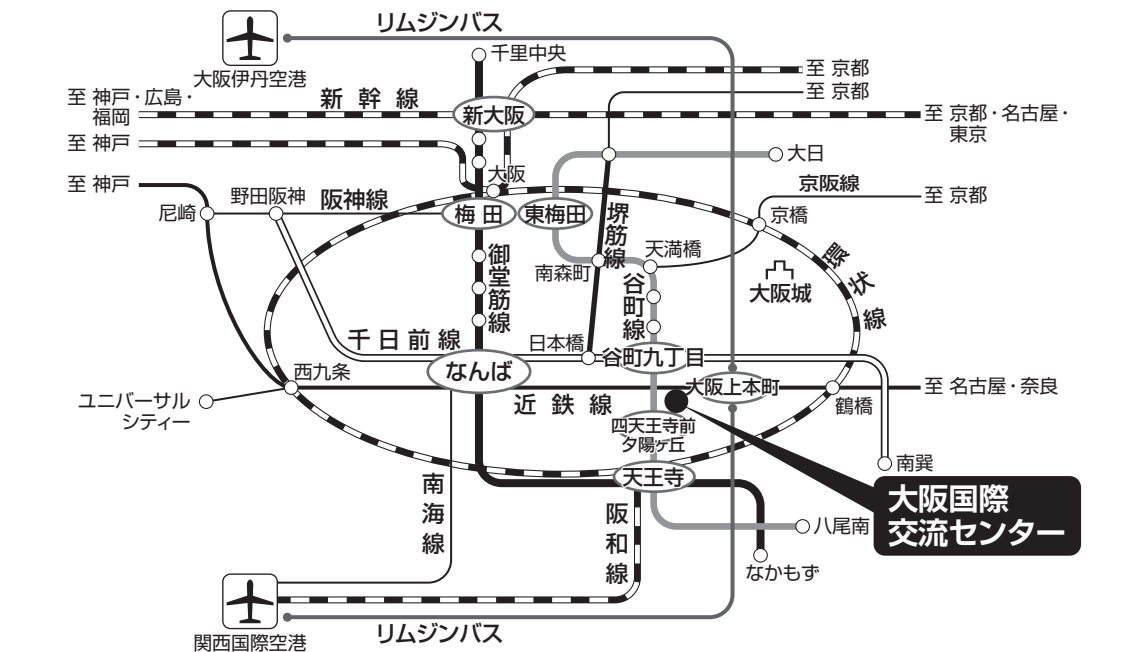
3. ポスター発表の方法

- ① ポスター発表はセッション形式で行います。各セッションには座長がつき、指定時間に会場にてディスカッションしていただきます。
- ② 掲示したポスターを用いて、座長の指示のもと1演題、発表7分、質疑応答3分以内で発表を行ってください。時間厳守をお願いします。

口述・ポスター発表の座長へのお願い

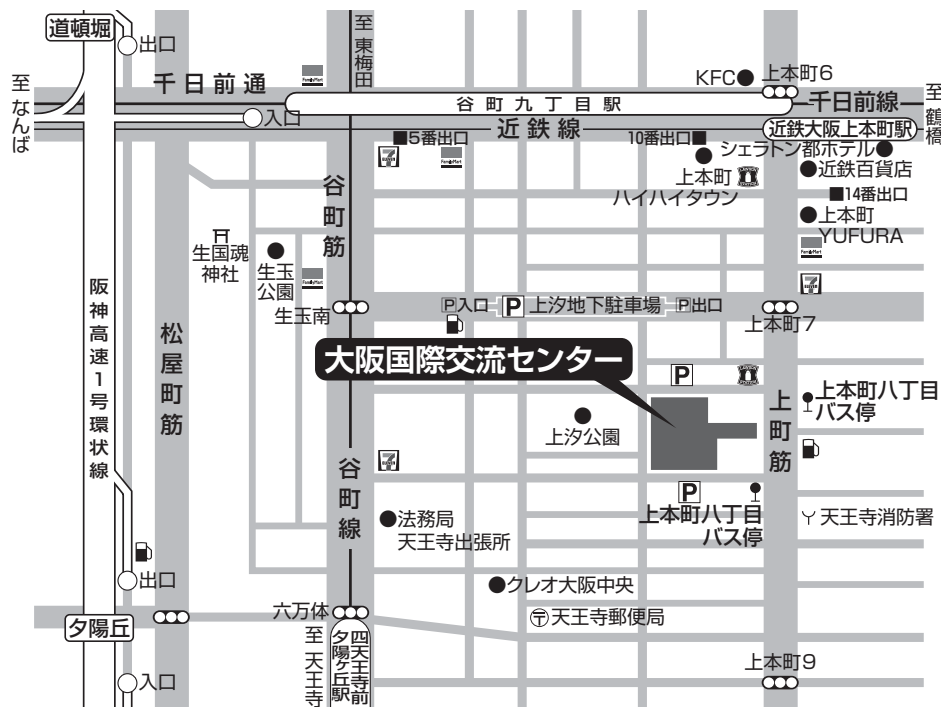
1. 担当セッションの開始30分前までに、1階アトリウム総合受付にある「座長受付」にお越しください。
2. 口述発表の座長は、担当セッションの開始10分前までに、会場内の「次座長席」で待機をお願いします。
3. ポスター発表の座長は、担当セッションの開始10分前までに、会場内の担当セッションポスター前にて待機をお願いします。
4. 口述発表及びポスター発表は、1演題につき発表時間7分、質疑応答3分以内です。プログラムの進行には、十分ご配慮いただきますようお願いします。

会場アクセス図



JR新大阪駅	御堂筋線	なんば	千日前線	谷町九丁目駅	10番出口	500m
JR大阪駅	JR環状線	JR鶴橋駅	近鉄線	大阪上本町駅	14番出口	400m
東梅田駅	谷町線		近鉄線	大阪上本町駅	14番出口	400m
天王寺駅	谷町線			谷町九丁目駅	10番出口	500m
大阪空港	リムジンバス(上本町線)			四天王寺前夕陽ヶ丘駅	11番出口	500m
関西国際空港	リムジンバス(上本町線)			バス停「上本町」		400m
				バス停「上本町」		400m

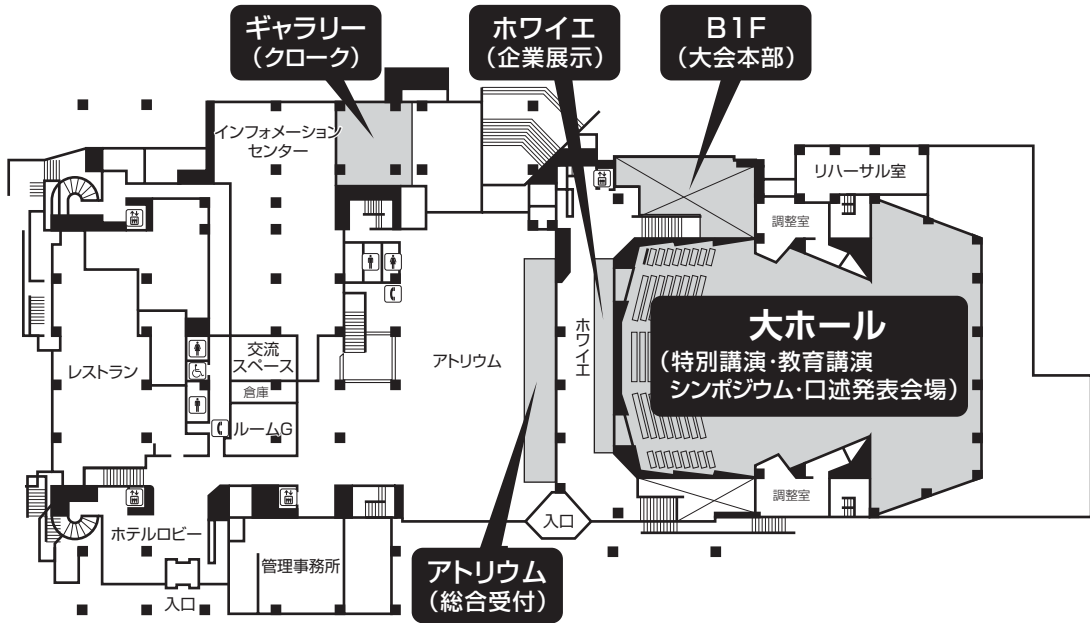
大阪国際交流センター



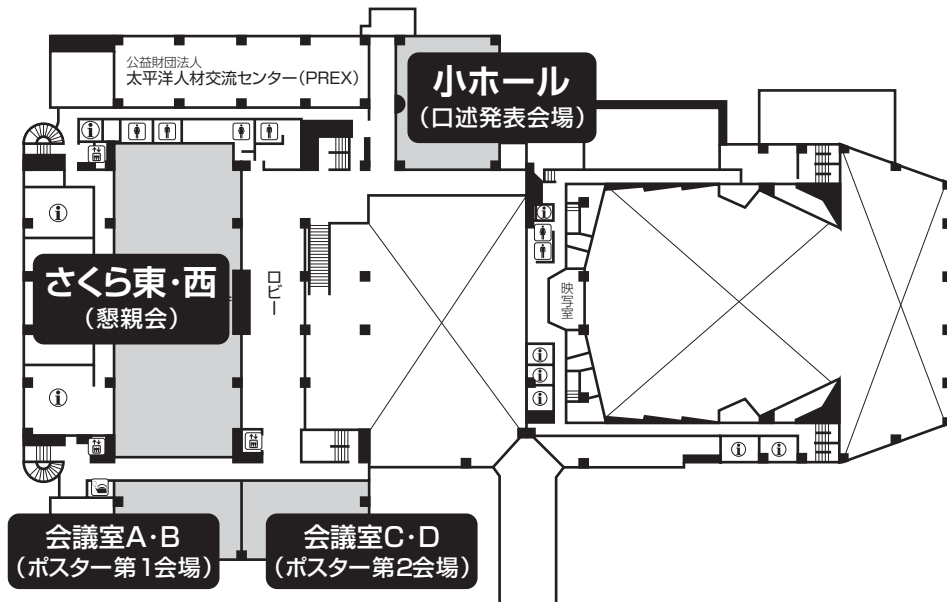
自動車での入構はできません。会場までは公共交通機関をご利用ください。

会場案内図

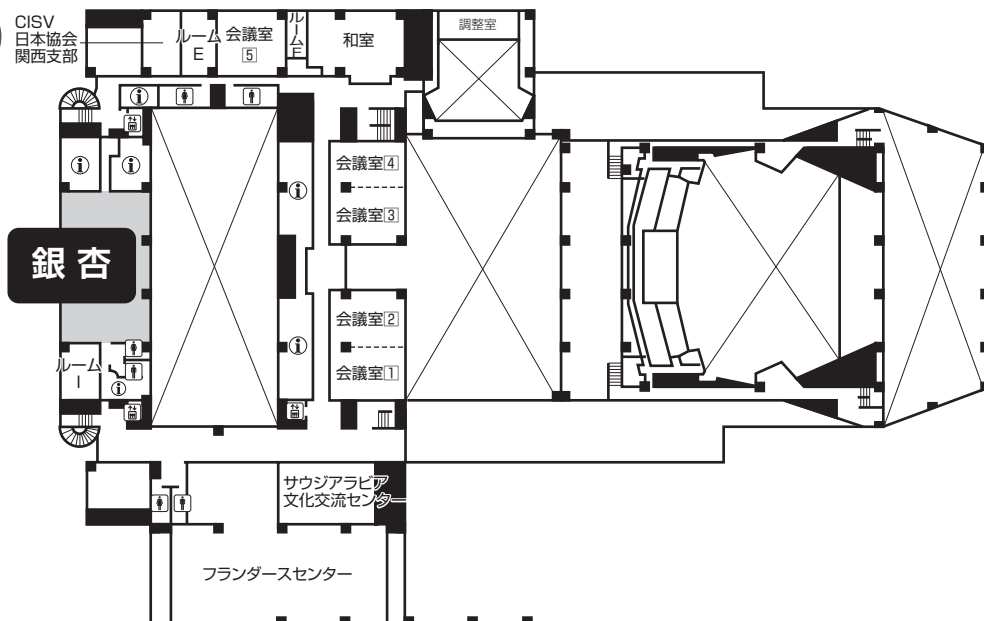
1F



2F



3F



	大会前日 8月21日(木)	1日目 8月22日(金)	2日目 8月23日(土)	3日目 8月24日(日)
9:00		9:00～11:00 研修ワークショップ	9:00～ 受 付	9:00～9:30 受 付
10:00		[会議室AB] [会議室CD] 管理者向け研修 教員向け研修	9:40～10:40 口述発表 [大ホール] セッション1 [小ホール] セッション4 休 憩 10:30～11:30 ポスター発表 [会議室AB/CD]	9:30～10:45 [大ホール] 教育講演Ⅰ 【テーマ】効果を上げる「笑い」と人材育成～されど愛しき日々～ 講師：笑福亭 松枝 司会：金尾 顕郎 休 憩
11:00		11:00～11:30 [会議室AB] ワークショップ修了式	10:50～11:50 口述発表 [大ホール] セッション2 [小ホール] セッション5	10:55～12:10 [大ホール] 教育講演Ⅱ 【テーマ】障害者福祉の動向とリハビリテーション 講師：岡田 太造 司会：河崎 建人
12:00		12:00～13:00 大会受付	昼 食	12:10～12:30 [大ホール] 閉 会 式
13:00	12:30～13:00 ワークショップ受付 13:00～18:30 研修ワークショップ	13:00～13:30 [大ホール] 開 会 式 13:30～14:45 [大ホール] 特別講演Ⅰ 【テーマ】保健医療福祉の連携協働とリハビリテーション教育に期待するもの 講師：高橋 紘士 司会：寺山 久美子 休 憩 15:00～17:00 [大ホール] シンポジウムⅠ 【テーマ】保健医療福祉の連携協働・地域包括ケアの時代とリハビリテーション教育 シンポジスト：谷 隆博 備酒 伸彦 山口 勝也 大嶋 伸雄 座 長：長倉 寿子	13:00～14:00 口述発表 [大ホール] セッション3 [小ホール] セッション6 13:30～14:30 ポスター発表 [会議室AB/CD] 14:50～16:05 [大ホール] 特別講演Ⅱ 【テーマ】高等教育における初年次教育の動向とリハビリテーション教育への提言 講師：梶田 叡一 司会：林 義孝 16:15～17:45 [大ホール] シンポジウムⅡ 【テーマ】療法士の生涯教育・生涯学習と卒前教育の在り方 シンポジスト：才藤 栄一 半田 一登 中村 春基 深浦 順一 座 長：長辻 永喜	
14:00	[会議室AB] [会議室CD] 管理者向け研修 教員向け研修			
15:00				
16:00				
17:00				
18:00		17:30～19:00 懇 親 会 [会場：さくら東・西会場]		
19:00	休 憩			
20:00	19:00～21:00 ワークショップ懇親会 [会場：銀 杏]			
21:00				

第26回 教員研修会プログラム

1日目 平成25年8月22日(木)

開 会 式

13:00～13:30

特別講演Ⅰ [リハビリテーション教育改革に向けてⅠ]

13:30～14:45

司会：寺山 久美子(大阪河崎リハビリテーション大学 副学長
第26回教育研究大会・教員研修会 大会長)

保健医療福祉の連携協働とリハビリテーション教育に期待するもの ～地域包括ケアシステムの視点から～

高橋 紘士 国際医療福祉大学大学院 教授

シンポジウムⅠ

15:00～17:00

座長：長倉 寿子(関西総合リハビリテーション専門学校 学科長
一般社団法人 兵庫県作業療法士会 会長)

保健医療福祉の連携協働・地域包括ケアの時代と リハビリテーション教育

地域包括ケアシステムの中で期待される療法士像
～在宅リハビリテーションの現場から～

株式会社かなえるリンク 代表取締役 谷 隆博

時代と共に変わるケアに応えるために
～「他者」を通して考える～

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授 備酒 伸彦

地域包括ケアシステムの中で期待される療法士像
～言語聴覚士の立場から

梶原診療所 在宅サポートセンター 言語聴覚士
一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会 理事 山口 勝也

地域包括ケアを担う人材育成のための専門職間連携教育(IPE)
—学部教育でIPEをどこまで展開するべきか—

首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 教授 大嶋 伸雄

2日目 平成25年8月23日(金)

特別講演Ⅱ [リハビリテーション教育改革に向けて2]

14:50～16:05

司会：林 義孝(武庫川女子大学大学院 教授
大阪府立大学 名誉教授)

高等教育における初年次教育の課題

梶田 叡一 兵庫教育大学 名誉教授・前学長
第4・5期中央教育審議会副会長・教育課程部会長

シンポジウムⅡ

16:15～17:45

座長：長辻 永喜(藍野大学 教授
社団法人 大阪府作業療法士会 会長)

療法士の生涯教育・生涯学習と卒前教育の在り方

療法士の生涯教育・生涯学習と卒前教育の在り方 —二分法的比較—

リハビリテーション教育評価機構理事長
藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学Ⅰ講座教授、同大学副学長 才藤 栄一

理学療法士の卒前教育・新人教育そして生涯学習システム

公益社団法人 日本理学療法士協会 会長 半田 一登

作業療法士の生涯教育・生涯学習と卒前教育のあり方

一般社団法人 日本作業療法士協会 会長 中村 春基

言語聴覚士の生涯教育・生涯学習と卒前教育の在り方

一般社団法人 日本言語聴覚士協会 会長 深浦 順一

3日目 平成25年8月24日(土)

教育講演Ⅰ

9:30～10:45

司会：金尾 顕郎(森ノ宮医療大学 副学長
第26回教育研究大会・教員研修会 副大会長)

効果を上げる「笑い」と人材育成 ～されど愛しき日々～

笑福亭 松枝 公益社団法人 上方落語協会

教育講演Ⅱ

10:55～12:10

司会：河崎 建人(大阪河崎リハビリテーション大学 理事長
公益社団法人 日本精神科病院協会 副会長
一般社団法人 全国リハビリテーション学校協会 常任理事)

障害者福祉の動向とリハビリテーション

岡田 太造 厚生労働省 社会・援護局長

閉会式

12:10～12:30

第26回 教育研究大会プログラム

2日目 平成25年8月23日(金)

口 述 発 表

セッション01 [学生状況01]

9:40～10:40 <1階 大ホール>

座長：幸田 利敬(大阪行岡医療大学 理学療法学科)

01-01 理学療法士養成校における座席行動研究の試み ―年齢による傾向―

仙台医療技術専門学校 山崎 瞬

01-02 理学療法士・作業療法士を目指す学生の社会的スキルの変化
―2009年度生と2013年度生の比較―

川崎医療福祉大学 金山 祐里

01-03 学力・臨床実習評価とコンピテンシーの関係について

常葉学園静岡リハビリテーション専門学校 堀本ゆかり

01-04 学生と教員との関わりについて ―担任・チューター制を併用して―

四国医療専門学校 石橋 誠隆

01-05 医療系短期大学における学生生活の現状
～3年間の学生生活活動実態調査からみえてくるもの～

福井医療短期大学 川岸 恵

01-06 専門学校学生の学校選択と入学後の意識に関する調査

専門学校川崎リハビリテーション学院 今岡菜海子

セッション02 [臨床実習01]

10:50～11:50 <1階 大ホール>

座長：松下 太(四條畷学園大学 作業療法学専攻)

01-07 臨床実習で学生が感じる不当待遇の実態
―医療系専門学校生への質問紙調査を通して―

福岡国際医療福祉学院 理学療法学科 松崎 秀隆

01-08 実習指導内容評価スケールの検討(2報) ―指導者による自己評価との比較―

姫路獨協大学 山形 力生

01-09 臨床実習支援用 DVD「臨床実習 NG 集」の紹介

医療法人社団清明会 静岡リハビリテーション病院 山田 洋一

01-10 クリニカルクラークシップ・チェックリストから分析される総合臨床実習の課題

目白大学 會田 玉美

01-11 初めての長期臨床実習における学生の積極性について
ー積極性を持って実習に取り組むことができなかったことー

奈良リハビリテーション専門学校 中谷 秀美

01-12 臨床実習評価表の自由記載欄と実習成績との関連性

東京衛生学園専門学校 遠藤 正樹

セッション03 [臨床実習02]

13:00～14:00 <1階 大ホール>

座長：西村 敦（藍野大学 理学療法学科）

01-13 臨床実習における情報提供項目の調査

奈良リハビリテーション専門学校 桶田 勝文

01-14 本学における臨床実習の取り組みについて

藤田保健衛生大学医療科学部 加賀 順子

01-15 本学における改訂版臨床実習成績表の検討

藤田保健衛生大学医療科学部リハビリテーション学科 保木本のぞみ

01-16 Rehabilitation Student Clerkship の導入について

藤田保健衛生大学医療科学部リハビリテーション学科 山田 将之

01-17 入学直後の臨床実習が学生の自己評価に与える影響

上尾中央医療専門学校 眞塩 紀人

01-18 多職種協働に向けた訪問実習の検討
～地域生活支援職種へのアンケート結果から～

大阪河崎リハビリテーション大学 高野珠栄子

特別講演

〔リハビリテーション教育改革に向けて〕

8月22日(木) 13:30～14:45

司会：寺山 久美子(大阪河崎リハビリテーション大学 副学長
第26回教育研究大会・教員研修会 大会長)

I 保健医療福祉の連携協働とリハビリテーション教育に 期待するもの ～地域包括ケアシステムの視点から～

高橋 紘士 国際医療福祉大学大学院 教授

8月23日(金) 14:50～16:05

司会：林 義孝(武庫川女子大学大学院 教授
大阪府立大学 名誉教授)

II 高等教育における初年次教育の課題

梶田 叡一 兵庫教育大学 名誉教授・前学長
第4・5期中央教育審議会副会長・教育課程部会長

保健医療福祉の連携協働と リハビリテーション教育に期待するもの ～地域包括ケアシステムの視点から～

高橋 紘士

国際医療福祉大学大学院 教授

1. 地域包括ケアシステムとは何か

地域包括ケアシステムという名称をはじめて使ったのは、公立みつぎ総合病院の山口昇医師である。その後厚労省老健局が介護保険改正に先だって設置した高齢者介護研究会(2003年6月)で、この概念が再定義され、2005年の介護保険改革に反映された。12年改正にあたり地域包括ケア研究会が組織され2年感にわたって研究報告を公表した。(2009年、2010年)、さらに次期改正の準備のために昨年地域包括ケア研究会2012が組織され、本年度も継続して検討を行うこととされた。

2012年の介護保険法改正では、地域包括ケアが法定化されるにいった。

「国及び地方公共団体は、被保険者が、可能な限り、住み慣れた地域でその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、保険給付に係る保健医療サービス及び福祉サービスに関する施策、要介護状態等となることの予防又は要介護状態等の軽減若しくは悪化の防止のための施策並びに地域における自立した日常生活の支援のための施策を、医療及び居住に関する施策との有機的な連携を図りつつ包括的に推進するよう努めなければならない。」

なお、地域包括ケアの概念は社会保障国民会議以来、内閣の社会保障制度改革における医療と介護の制度改革が目指す方向性を示す政策概念としても登場するに至った。

2. 社会理論としての地域包括ケアシステム

また、「病院の世紀の理論」(2010年)で知られる猪飼周平氏は治療医学の世紀から生活モデルに基づくヘルスケアシステムの移行のなかで、地域包括ケアシステムに必然的に移行するとし、保健医療福祉が生活の質の向上という一つの目的を共有する条件が初めて揃うと指摘している。

国際的に見ると、統合ケアへの移行は大きな潮流でもあり、これを地域基盤で展開しているのはオランダなどである。その意味でオランダは地域包括ケアの一つのモデルを提供するともいえる。(筒井孝子、堀田聡子による)

教育講演

8月24日(土) 9:30～10:45

司会：金尾 顕郎(森ノ宮医療大学 副学長
第26回教育研究大会・教員研修会 副大会長)

I 効果を上げる「笑い」と人材育成 ～されど愛しき日々～

笑福亭 松枝 公益社団法人 上方落語協会

8月24日(土) 10:55～12:10

司会：河崎 建人(大阪河崎リハビリテーション大学 理事長
公益社団法人 日本精神科病院協会 副会長
一般社団法人 全国リハビリテーション学校協会 常任理事)

II 障害者福祉の動向とリハビリテーション

岡田 太造 厚生労働省 社会・援護局長



効果を上げる「笑い」と人材育成 ～されど愛しき日々～

笑福亭 松枝

公益社団法人 上方落語協会

1969年3月にこの世界に飛び込みました。今年が2013年。ほぼ45年、落語家として生きてきた勘定です。

私が師匠と選んだ人は故・6代目笑福亭松鶴。

直系の弟子は仁鶴、鶴光、福笑、松喬、松枝(私)、呂鶴、鶴瓶、鶴志、枝鶴、伯鶴、和鶴、竹林、円笑、鶴松、岐代松、伯枝、忍笑、鶴笑、鶴二。

全国にその名を知られた者もいれば余程の落語ツウでないと知らない者も。エッ?「松枝さん、貴方もその一人じゃないか?」。タハハ。

総勢19人。一門としては東西通じてかなり多い方です。しかし入門した者は兄弟弟子で数え合わせると90人から100人近くいました。約五人に一人!

プロの世界。いかに落語が好きで熱意と努力を持ってしても必ずやっていけるわけではありません。実際5年、10年、20年続けながらやがて廃業した者も少なくない世界です。ところが我が一門、弟子入り一年未満でやめた者が三分の二以上。見きわめをつけるのが何とも早いのです。極端な話、入門一日で来なくなった者も(師匠宅が狭かった為、皆通いでした)。

その理由は…。

師・松鶴の弟子への方針は“来る者は拒まず、去る者は追わず”。弟子入りは拍子抜けするぐらいとても簡単?に許されたのです。しかしその後、“カラスの鳴かない日はあっても松鶴が弟子を怒鳴りつけない日はない”。

又その罵声のレパートリーの豊富なコト。

「アホンダラ、カスンダラ、ボケンダラ(日本語?)。イタイガキ、トロイガキ、グズイガキ、三文の値打もない、役に立たん、えらい弟子持ってしもた。一生の不作や。育ちが悪い。親の顔が見たい。やめい、去ね、死ね、ド阿呆ー」

入門して三日で胃に穴の空いた者もありましたっけ。この罵声のシャワーに耐えた19人のみが、松鶴直系の弟子として多くの同業者から尊敬のまなざし…、エッ?「それって今で言う“ドS、ドMの世界”では?」オホン。

まあとにかく師弟として過ごした日々は苦く辛く悲しく…、されども弟子銘々”黄金の日々“なのです。かけがえのない愛しい歲月!

そんなかつての泣き笑い、そして私のフィールドの”お笑いについての考察“。どうか最後までお付き合い下さいます様、宜しくお願い致します。

シンポジウムⅠ

保健医療福祉の連携協働・地域包括ケアの 時代とリハビリテーション教育

8月22日(木) 15:00～17:00

座長：長倉 寿子(関西総合リハビリテーション専門学校 学科長
一般社団法人 兵庫県作業療法士会 会長)

地域包括ケアシステムの中で期待される療法士像
～在宅リハビリテーションの現場から～

株式会社かなえるリンク 代表取締役 谷 隆博

時代と共に変わるケアに応えるために
～「他者」を通して考える～

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授 備酒 伸彦

地域包括ケアシステムの中で期待される療法士像
～言語聴覚士の立場から

梶原診療所 在宅サポートセンター 言語聴覚士
一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会 理事 山口 勝也

地域包括ケアを担う人材育成のための専門職間連携教育(IPE)
—学部教育でIPEをどこまで展開するべきか—

首都大学東京大学院人間健康科学研究科 教授 大嶋 伸雄

地域包括ケアシステムの中で期待される療法士像 ～在宅リハビリテーションの現場から～

谷 隆博

株式会社かなえるリンク 代表取締役

【現 状】

〈介護保険の意義から地域療法士に求められること〉

- 保険料負担と給付・サービスとの対応が明確な「社会保険方式」であり利用者負担を除いた給付費の半分を公費、残り半分を保険料財源で賄っていることから、サービス提供にあつては正確なサービス記録と管理が求められること。
- 利用者本位の制度であることから、リハビリ三職種は利用者に対してどのようなサービス提供を行うことにより自立支援に資することができるかを利用者・家族・ケアマネジャーに対し丁寧に説明し選択して頂く必要があること。そして、常に選ばれるサービス事業所づくりに徹することが求められる。特に営利法人にあつては、人を不快にさせない最低限のしつけ・マナーを徹底し、その上に療法士としての技能が必要となること。
- 専門職の連携協力による介護支援サービス（ケアマネジメント）の仕組みを導入したことから、それぞれの職種に対し適宜な報告・連絡が不可欠であること。スピードをもって対応することも誠意だとして取り組むことも大切である。また、医療職種の傾向として上位の立場から発言されることが散見すること。
- 「措置委託」を廃止し利用者と事業者との「契約」に改めたことから、それぞれは対等な関係でありどちらかが一方的な関わりになることがないよう、バランス感覚が必要なこと。

【課 題】

- 医療－介護連携の前提となる退院前カンファレンスへの療法士（病院側・在宅側は特に）参加が少ないことから在宅リハビリの必要性が顕在化しにくいこと。
- ケアマネジャーが主催するサービス担当者会議への療法士参加が少ないことからケアプラン上への自立支援の視点が十分でないこと。
- 利用者がどのような状態になれば療法士の介入が必要であるかを他職種へ具体的に指示・周知されていないこと。
- 他職種が認知症の利用者に対して療法士が関わる必要性を感じていないこと。
- 今後、地域ケア会議が開催されていく中、利用者の心身機能の予後予測を含め自立支援の視点に立ったマネジメントができる療法士を育成する必要があること。

【地域での成功を目指す療法士】

- 一、実践に強くなれ、まず日々の糧を得よ。
- 二、学会等に論文を発表し、理論に強くなれ。
- 三、講演等を通じて、人に伝える技術を学べ。
- 四、臨床実習指導を手掛けて、人材育成の技術を学べ。
- 五、教養を身に着け、ユーモア人たれ。

恩師：松下起士氏（作業療法士、現ハートケアグループ代表）の言葉

シンポジウムⅡ

療法士の生涯教育・生涯学習と 卒前教育の在り方

8月23日(金) 16:15～17:45

座長：長辻 永喜(藍野大学 教授
社団法人 大阪府作業療法士会 会長)

療法士の生涯教育・生涯学習と卒前教育の在り方 —二分法的比較—

リハビリテーション教育評価機構理事長
藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学Ⅰ講座教授、同大学副学長 才藤 栄一

理学療法士の卒前教育・新人教育そして生涯学習システム

公益社団法人 日本理学療法士協会 会長 半田 一登

作業療法士の生涯教育・生涯学習と卒前教育のあり方

一般社団法人 日本作業療法士協会 会長 中村 春基

言語聴覚士の生涯教育・生涯学習と卒前教育の在り方

一般社団法人 日本言語聴覚士協会 会長 深浦 順一

療法士の生涯教育・生涯学習と卒前教育の在り方 —二分法的比較—

才藤 栄一

リハビリテーション教育評価機構理事長
藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学Ⅰ講座教授、同大学副学長

専門家養成は、専門家の稼働期間が50年と長期の及ぶため、その是非判断が難しい。

目先に囚われれば未来を損ない後進に大きなしわ寄せが及ぶだろうし、遠未来の不確実性は容易に決断を揺るがす。

演者は、リハビリテーション科医として30余

年、療法士養成に関わってきた。その中で日頃感じている点を、「二者間の二分法的比較」という乱暴な切口で眺め、参加者の思考を刺激したい。

取り上げる比較は、医療人－企業人、療法士－医師、教育－学習である。

理学療法士の卒前教育・新人教育 そして生涯学習システム

半田 一登

公益社団法人 日本理学療法士協会 会長

理学療法士の養成課程及び卒後研修システムにはまだまだ課題が山積している。それらを見えやすくするために、臨床実習前教育・臨床実習教育・卒後新人教育・生涯学習システムと区分する。

臨床実習前教育では、養成校の「国家試験予備校」的教育の現状をよく耳にする。診療報酬のリハビリ料には、「リハビリテーション医療は理学療法、作業療法、及び言語聴覚療法等の治療法より構成され、」と記載されているが、治療を前提とした基礎分野、専門基礎分野、そして専門分野の教育がなされているのであろうか。中にはこの授業時間の資料が過去問という養成施設もあるという。もうひとつの臨床実習前教育の課題は専門分野の理学療法の標準形がないことである。標準形がないことによって、過去問を覚えさせることが標準形を知ることとなっている。

臨床実習教育の課題はもっと深刻である。この期間の教育は、実習前教育で学んだ標準形の臨床的検証及び活用場である。しかし、標準形がないために学生は指導者の思いに振り回されることになる。言い方を変えれば、標準形がないために実習前教育と実習教育の連動がない状況にあると言える。もうひとつの課題は、絶対的な実習の量不足である。従前には1,680時間であったのが、座学時間の必要性の高まりの中で810時間に激減

したことである。理学療法士教育が始まったころと比較すると、疾患別理学療法・病期別の理学療法・施設の機能別理学療法が社会的ニーズとなってきた。本来であれば、実習時間の延長が必要な時に、3年制を絶対的な位置づけとし、座学を増やしたことは今日に大きな影を落としている。本会の白書による調査では年々歳々、新卒者のレベルが下がり続けている。

本会では、卒後初期の研修を「新人教育」という呼称にした。教育とした背景には、卒業後のこのカリキュラムは会員の義務として位置づけたからであった。しかし、その履修率は40%台を終始したために、1年前に新人教育カリキュラムの緩和を行った。結果的には約60%まで履修率を引き上げることができたが、逆の言い方をすると未だに卒業と共に40%がドロップアウトしていることになる。卒業後の入り口でこうであれば、生涯学習システムの動向は押して図るべくもない。

このような実態の背景には、国民皆保険制度が強く影響している。国民皆保険を実効あるものにするために安い医療は必然である。これを実現させるためには、医療職の低学歴は必要条件となってしまう。国家的必要条件の中にある理学療法士教育を改善することは甚だ困難なことである。

第26回 教育研究大会

一口述発表

日 時：8月23日（金） 9:40～14:00

〈1階 大ホール〉

セッション**01** 9:40～10:40

セッション**02** 10:50～11:50

セッション**03** 13:00～14:00

〈2階 小ホール〉

セッション**04** 9:40～10:40

セッション**05** 10:50～11:50

セッション**06** 13:00～14:00

理学療法士養成校における座席行動研究の試み —年齢による傾向—

○山崎 瞬、岩坂 憂児

仙台医療技術専門学校

Key words : 座席行動、成績、年齢

【目的】理学療法士・作業療法士養成校において学生の意欲に関する様々な評価法が発表されている。北川(1978)が報告した座席行動研究は理学療法士養成校での学生の行動分析に利用できる可能性がある。しかし年齢との関係は検証していない。本研究は理学療法士養成校における座席行動の有用性および年齢と座席行動の関係を検証した。

【方法】対象は、当校理学療法学科学生(昼間課程2年次、夜間課程3年次)83名(年齢 23.6 ± 5.7)である。

座席選択の指標として9×9升のアンケート用紙への自由記載を用い「自分が座りたい席」を記載してもらった。それぞれの升に前後は上から、左右は左から1, 2, 3と数字を割り当てた。

前後配列における座席選択と平均点の関係を明らかにするために座席選択と成績の平均点の相関係数を測定した。また座席選択の前後性と年齢の関係性を検定するため、1～5列を前、6～9列を後ろとし、それぞれの平均年齢を対応のないt検定で検定し、有意水準は5%未満とした。統計処理はR×64 2.15.2を用いた。

【結果】成績と前後の座席選択及び左右の座席選択の相関は認められなかった。前後それぞれを選んだ年齢の平均を対応のないt検定で検定したところ有意な差が見られた。

【考察】本研究は、座席選択を用い、成績と座席選択および年齢と座席選択の関係を検討した。北川は短期大学生にて検証しており、本学のように幅広い年齢の学生を対象とした研究ではない。年齢の高い学生は社会人経験者が多く、物事を俯瞰的にみようとする態度が強い可能性があり、年齢が座席選択に影響する可能性がある。自由記載欄にも「全体を見渡せるため」という記載が見受けられた。後方を選択した学生の方が、有意に年齢が高く、年齢が座席選択に影響する可能性が示唆された。この点についてはさらなる検討が必要と考える。

理学療法士・作業療法士を目指す学生の 社会的スキルの変化 —2009年度生と2013年度生の比較—

○金山 祐里、土屋 景子、小野 健一、吉村 洋輔、
高橋 尚、井上 桂子

川崎医療福祉大学

Key words : 社会的スキル、大学生、近年の変化

【はじめに】社会的スキルとは「対人関係を円滑に運ぶために役立つスキル」である。近年、学生のコミュニケーション能力の低下が問題として指摘されている。本研究の目的は、近年のPT・OTを目指す学生の社会的スキルの変化を調査することである。

【方法】対象は本学リハビリテーション学科の2009年度入学生(以下、2009年度生)82名と2013年度入学生(以下、2013年度生)88名である。入学時に社会的スキル測定尺度 Kiss-18を実施し、研究の趣旨を説明し同意を得た者に無記名で回答してもらった。Kiss-18は18項目(以下、全体)から成り、初歩的なスキル(以下、初歩)、高度のスキル(以下、高度)、感情処理のスキル(以下、感情)、攻撃に代わるスキル(以下、攻撃)、ストレスを処理するスキル(以下、ストレス)、計画のスキル(以下、計画)の6つの下位項目に分類される。評価は5段階のリッカート法で、自己評価にて回答してもらう。2009年度生と2013年度生の得点の比較は Mann-Whitney 検定、各年度内の比較は Wilcoxon 検定を用い、危険率5%未満を有意とした。

【結果】回収率は2009年度生、2013年度生ともに100%であった。2009年度生と2013年度生の得点を比較した結果、全体・6つの下位項目すべてに有意差は認められなかった。また、各年度内の得点を比較した結果、両学生ともに高度が初歩・感情・攻撃・ストレス・計画よりも有意に高かった。

【考察】近年の学生の Kiss-18 の得点に変化がないことがわかった。理由として Kiss-18 では客観的な変化までは抽出出来なかったこと、比較年度の間隔が短かったため本当に変化がなかったことが考えられるが、今回の調査では理由までは明らかに出来なかった。今後はさらに長期間の比較ができるようにデータを蓄積し、客観的な評価も含み検討したい。

第26回 教育研究大会

—ポスター発表—

日 時：8月23日（金） 10：30～14：30

〈2階 第1会場 会議室A・B〉

セッション7～10 10：30～11：00

セッション11～14 13：30～14：30

〈2階 第2会場 会議室C・D〉

セッション15～18 10：30～11：00

セッション19～22 13：30～14：30

理学療法士養成校学生における行動特性の検討 ― 座席選択を利用して ―

○岩坂 憂児、山崎 瞬

仙台医療技術専門学校

Key words : 座席選択、成績、行動特性

【目的】理学療法士・作業療法士の養成校における学生の意欲を評価するために様々な評価法が検討されている。その中で学生の特性を検討する簡便な指標として北川(1978)が報告した座席行動特性が理学療法士養成校の学生にも有効であるかを検討するために本研究を行った。

【方法】対象は本学昼間部2年次に在籍している学生(52名)とした。座席選択の指標として、9×9の升目の入っているアンケート用紙に対する自由記載を用い「自分が座りたい席」を記載してもらった。それぞれの列に前後を上から1, 2, 3と数字を割り当てた。

前後の席の配列における平均点との関係を明らかにするために一元配列分散分析を実施し、その後有意差が認められた場合に多重比較検定を実施した。有意水準は5%未満とした。座席によっては選択数の差が大きいことが予想されたため、座席選択において5名以下の場合には統計処理のデータには含めなかった。統計処理には無料ソフトであるR2.13.1を用いた。

【結果】座席選択と学内成績については、前後の選択と平均点との間には有意差が見られた($F(3.35) = 7.95, p < 0.01$)。多重比較検定を行なったところ、3列目を選択した群の平均点が1, 2列目を選択した群の平均点より有意に低かった($p < 0.05$)。

【考察】本研究は北川の報告した座席選択と学力との関係性を見たものである。自由記載欄に「後ろに人がいないほうがいい」という成績とは直結しにくいと考えられることも書かれていたことから、座席選択には様々な要素が絡み合っていることが考えられたが、前後方向での座席順番と平均点の間には有意差が見られ先行研究と同様に前方座席を選択する学生の方が成績は良好である可能性が示唆された。

本研究は予備的に行なっているものであり、今後も十分に検討していく必要があると考える。

学生の抱く研究のイメージについて

○爲数 哲司、安立 多恵子、平島 ユイ子、難波 雄

国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部

Key words : 研究、言語聴覚障害学、学生

【研究の目的】医療の進歩に伴い、言語聴覚士が取り扱う言語聴覚障害は多様化し、様々なニーズへの対応が期待されている。研究活動による言語聴覚障害の病態の解明や新たな評価および訓練法の開発は、言語聴覚士の責務である。しかし、研究に取り組む者が多いとは言えないのが現状である。

本学では、3年次に言語聴覚障害研究法概論、言語聴覚障害研究法実践、卒業研究の3科目を配置し、将来の研究活動に繋げられるよう配慮している。全て選択科目であるが、研究の基礎となる言語聴覚障害研究法概論は、推薦科目に指定しているため全員が履修している。

今回我々は、今後の研究活動の推進には、学生が研究に対して当初どのようなイメージを抱いているのかを把握する必要があると考え、調査したので報告する。

【方法】言語聴覚学科の学生40名(20～22歳)を対象に、無記名によるアンケートを実施した。内容の構成は①研究の重要性への認識、②学生自身の研究への関心、③研究を行う上での重要なこと、④将来研究をしたいか、⑤人生の価値観についての5項目である。回答は、多肢選択式とした。

【結果】①研究が重要であると回答した学生は80%であった。②興味有りが57%、無しが32%であった。③回答内容にはバラツキがあったが、上位の2要因は「興味や情熱」、「研究時間の確保」であった。④73%が、将来機会があれば研究したいと回答した。一方、研究したくないと回答した学生は23%であった。その理由は「能力的に難しい」「時間がない」「研究資金がない」が、ほぼ同数を占めた。⑤自分にとって価値あることは「友人との交流」が最も多く、次に「大学での勉強」「社会への貢献」と続いた。

【考察】アンケート調査の結果、学生の多くが研究の重要性を認識しており、将来研究したいと思っていることが判明した。今後、卒前教育の在り方を考慮し、学生の当初の気持ちを持続させることの重要性が示唆された。

祝！第26回 教育研究大会・教員研修会

全国リハビリテーション学校協会 近畿ブロック会員校

滋賀県	滋賀医療技術専門学校	兵庫県	関西総合リハビリテーション専門学校 甲南女子大学看護リハビリテーション学部 神戸医療福祉専門学校須磨校 神戸医療福祉専門学校三田校 神戸学院大学総合リハビリテーション学部 神戸国際大学リハビリテーション学部 神戸総合医療専門学校 神戸大学医学部 神戸リハビリテーション福祉専門学校 宝塚医療大学 西はりま医療専門学校 ハーベスト医療福祉専門学校 姫路獨協大学 兵庫医療大学 平成リハビリテーション専門学校
京都府	京都医健専門学校 京都大学医学部人間健康科学科 京都橘大学 佛教大学		
大阪府	藍野大学 大阪医専 大阪医療技術学園専門学校 大阪医療福祉専門学校 大阪河崎リハビリテーション大学 大阪電気通信大学医療福祉工学部 大阪府立大学 大阪保健医療大学 大阪リハビリテーション専門学校 関西医科専門学校 関西医療学園専門学校 関西福祉科学大学 近畿リハビリテーション学院 四條畷学園大学 清恵会第二医療専門学院 阪奈中央リハビリテーション専門学校 箕面学園福祉保育専門学校 森ノ宮医療大学 行岡リハビリテーション専門学校 履正社医療スポーツ専門学校	奈良県	関西学研医療福祉学院 畿央大学 奈良リハビリテーション専門学校 白鳳女子短期大学
		和歌山県	和歌山国際厚生学院

（府県別 五十音順）

一般社団法人 全国リハビリテーション学校協会
第26回 教育研究大会・教員研修会 準備委員会

大会特別顧問

河崎 健人（学校法人河崎学園）
栗岡 良幸（学校法人栗岡学園）
清水 尚道（学校法人森ノ宮医療学園）

大会顧問

山田 龍作（大阪河崎リハビリテーション大学）
辻井 信行（阪奈中央リハビリテーション専門学校）
荻原 俊男（森ノ宮医療大学）

大 会 長 寺山久美子（大阪河崎リハビリテーション大学）
大会長代理 酒井 桂太（大阪河崎リハビリテーション大学）
副 大 会 長 金尾 顕郎（森ノ宮医療大学）
木村 保（阪奈中央リハビリテーション専門学校）
準備委員長 高橋 泰子（大阪河崎リハビリテーション大学）
副準備委員長 福永 宣典（阪奈中央リハビリテーション専門学校）

学 術 局

学 術 局 長 河村 廣幸（森ノ宮医療大学）
演題採択部 三木屋良輔（森ノ宮医療大学）
企 画 部 小峯 武陸（大阪河崎リハビリテーション大学）
植村 博也（阪奈中央リハビリテーション専門学校）
前田 薫（森ノ宮医療大学）

事 務 局

事 務 局 長 佐竹 勝（大阪河崎リハビリテーション大学）
事務局長補佐 小林 治（大阪河崎リハビリテーション大学）
岡村 康司（阪奈中央リハビリテーション専門学校）
運 営 部 上原 眞一（阪奈中央リハビリテーション専門学校）
広告・展示 藤平 保茂（大阪河崎リハビリテーション大学）
財 務 部 武井 麻喜（大阪河崎リハビリテーション大学）
総 務 部 石川 健二（大阪河崎リハビリテーション大学）

一般社団法人 全国リハビリテーション学校協会
第26回 教育研究大会・教員研修会 プログラム・抄録集

平成 25 年 8 月 発行

事務局：第26回教育研究大会・教員研修会 準備委員会
学校法人 河崎学園 大阪河崎リハビリテーション大学
〒597-0104 大阪府貝塚市水間158
TEL：072-446-6700 FAX：072-446-6767
<http://kyouin26.umin.jp>

出 版：(株)セカンド 学術集会専門出版社
株式会社 セカンド
学会サポート

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025



「夢」と「大慈大悲」

大阪河崎リハビリテーション大学

リハビリテーション学部
リハビリテーション学科

- 理学療法学専攻
- 作業療法学専攻
- 言語聴覚学専攻

〒597-0104 大阪府貝塚市水間 158 番地

Tel. 072-446-6700 E-mail. jimukyoku@kawasakigakuen.ac.jp

大阪河崎|

検索